

られた。2頭ずつしか幼虫が見られなかった木には脱皮殻は見られなかった。

◎ 姫路市仁豊野 26-Ⅸ-1985

アラカンに数頭の幼虫を見る。脱皮殻は見られなかった。

◎ 姫路市広畑区大町 14-X-1985

新日鉄前のポプラ並木の中の本(幹周り1.7m), 地上から1.5mの深さ3cm, 大きさ手のひら位の凹部に26頭の幼虫が存在した。脱皮殻は6個あった。

◎ 姫路市広畑区鶴町 23-X-1985

ここは町名が異なるだけで上記の地点から200m程離れているだけである。新日鉄前のポプラ並木の中の本(幹周り2.5m), 地上から0.4mの樹皮が割れかけて盛り上がったところに5頭の幼虫が存在した。脱皮殻は見付からず。

上記の地点とともにここは海岸線から900m程隔たった工業地帯の中心地であつ樹木といえほとんど街路樹ばかりのところである。このような場所にも本種が進出していることは注目してもよいのではないかと考える。

宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(続報その5)

新 家 勝

I. はじめに

今回は、これまでの採集品中の未同定品で新たに同定できたものについて報告するとともに、これまでに報告したうちの誤りについて訂正させていただく。なお、採集場所については「宝塚市」を省略して記載する。

II. 未同定品中、新たに同定したもの。

- | | |
|---------------------------------------|---------|
| (1) <i>Anacronicta plumbea</i> Butler | ナマリケンモン |
| Ⅵ, 15, 1982 南口2丁目 | |
| (2) <i>Agrotis tolionis</i> Butler | オオカブラメガ |
| Ⅺ, 10, 1983 南口2丁目 | |
| (3) <i>Oligonyx vulnerata</i> Butler | ベニモンヨトウ |
| V, 3, 1983 武庫川町 | |

- (4) *Platysenta illecta* Walker オオホンミミヨトウ
 XI, 4, 1983 武庫川町
- (5) *Avitta fasciosa* Moore オオトウウスグロクチバ
 XI, 4, 1983 武庫川町
- (6) *Chilo sacchariphagus* Bojer スジツトガ
 V, 25, 1982 武庫川町
 V, 23, 1985 "
- (7) *Endotricha theonalis* Walker カバイロトガリメイガ
 VIII, 14, 1982 武庫川町

III. 訂正

- (1) 第10巻第1号で報告した *Herculia nanalis* Wileman コシマメイガは誤りで、第13巻第2号で報告した *Herculia glaucinalis* Linne¹ スタスジシマメイガが正しい。
- (2) 第10巻第2号で報告した *Alcis albifera* Inoue ヒメナカウスエダシヤクは誤りで、第10巻第1号で報告した *Alcis angulifera* ナカウスエダシヤクの矮小品であった。
- (3) 第11巻第1号で報告した *Rhynchobapta punctilinearis* Leech モンオビオエダシヤクは誤りで、第13巻第2号で報告した *Rhynchobata flaviceps* Butler マエキオエダシヤクが正しい。

IV. あとがき

1985. 2, 大阪市立自然史博物館に赴いた際、同博物館のご好意により講談社発行の日本産蛾類大図鑑をみせていただいた。その際、これまでの未同定品中、幾種かのもが同定できた。また、この図鑑が最近のカラー印刷技術の向上に伴い、従来とは比較にならない程、図版が鮮明でかつ忠実なものになっていることを確認した。そこで、この図鑑を購入し、未同定品について照合するとともに、既同定品についても再照合したところ、汚損がはげしい2・3種を除いて同定でき、また一部のものについて誤同定があったことがわかった。

今回報告するもののうち、オオトウウスグロクチバ、オオホンミミヨトウ、スジツトガは、従来の図鑑に記載されていなかったもので、それぞれオオトウウスグロクチバは極地的なもの、オオホンミミヨトウは土着種とはいえないもの、スジツトガは外来種で分布を広げつつあるものである。

なお、従来の誤同定による報告につきましては、大変ご迷惑をお掛けしましたこととお詫び致します。

V. 参考文献 講談社 日本産蛾類大図鑑